

小5, 6 宮沢賢治の作品のおもしろさを伝えよう（5 学年）

物語のおもしろさを『本の宝箱』に表して伝えよう（6 学年）

研究主題 「言語活動と読書活動を関連づけた単元学習の在り方について」

－関連読書と単元を貫く言語活動を位置づけた物語文の学習を通して－

日立市立日高小学校 林田 篤子

1 テーマについて

学習指導要領では、国語科における言語活動において「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の各領域において基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできるような言語活動例が示されている。

また、読書活動については、目的に応じて、本や文章などを選んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視している。

読書傾向に偏りがあり、本の世界がなかなか広がらない子どもたちに物語のおもしろさをどう伝えていくのか。児童自らが課題を持ち単元学習に意欲的に取り組むためにはどのような言語活動を位置づけたらよいか。5 年生と 6 年生、物語文の 2 つの実践を通して、単元を貫く言語活動と読書活動を関連づけた単元学習の在り方にせまりたいと考え、本テーマを設定した。

2 研究の仮説

- (1) 読書活動と関連づけた単元を貫く言語活動を位置づけ、児童主体で学習計画を立てることで、児童は主体的かつ意欲的に学習活動に取り組むであろう。
- (2) 読書活動を充実させるために、読書コーナーや読書カードを活用すれば、児童の読書活動がさらに充実するであろう。

3 単元名および関連読書と単元を貫く言語活動について

(1) 実践事例 1

○単元名

宮沢賢治の作品のおもしろさを伝えよう

（5 学年「注文の多い料理店」）

○関連読書

- ・宮沢賢治の作品を読書コーナーとして設置。
- ・読書カード「賢治ワールドへようこそ」の活用。

○単元を貫く言語活動

- ・賢治作品を読んで、作品を紹介する「ポスター」を作ろう。
- ・ポスターの内容「本の題名」「心に残る場面の絵」「自分の名前」の他に「登場人物」「あらすじ」「印象に残る会話文」「結末を除いたあらすじ」「おすすめメッセージ」「自分の名前」の 5 つを必ず入れる。

(2) 実践事例 2

○単元名

物語のおもしろさを『本の宝箱』に表して伝えよう

（6 学年「海のいのち」）

○関連読書

- ・6 年間で最もおもしろかった物語として、一人一冊選書する。学年で 104 冊を学年の読書コーナーに設置。
- ・しおりとして本の紹介を書いた読書カードをはさんでおく。読み終わったら、「読んだよメッセージ」を書く。

○単元を貫く言語活動

- ・おすすめの本を紹介する『本の宝箱』を作ろう。
- ・『本の宝箱』内容「箱の扉」「背表紙」「登場人物」「あらすじ」「本のテーマ」「感想」「おすすめメッセージ」などを各自工夫する。

4 実践事例1

単元名 宮沢賢治の作品のおもしろさを伝えよう（教材「注文の多い料理店」）

（1）目標

- 宮沢賢治の作品をすすんで読み、本のポスター作りに意欲的に取り組もうとする。
（国語への関心・意欲・態度）
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
（読むこと）
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

（2）指導にあたって

本単元では「宮沢賢治の作品のおもしろさをポスターで伝えよう」を単元を貫く言語活動とした。多くの作品の中から紹介するものが選べるよう、賢治作品の読書コーナーを設置し、教材文の学習と並行して読書活動を行う。読書週間とも重なる時期なので、「賢治ワールドへようこそ」という読書の手引きを作成し、意欲的にたくさんの作品にふれられるよう工夫したい。事前調査の結果では、宮沢賢治についてほとんどの児童が見聞きしたことがあることがわかった。また、「雨ニモマケズ」や「銀河鉄道の夜」を知っている児童が多かった。

導入時には、ポスターの例を教師が示すことで、学習への見通しが持てるようにする。ポスターには大きく「作品名」と「おもしろかった場面の絵」を中心に描き、周囲には「あらすじ」「登場人物」「おもしろい場面（絵）の紹介文」「おもしろい会話文や言葉」「おすすめメッセージ」の5つを書き入れることを具体的に示し、何について何のために学習するのかを明確にする。

達成度調査では、本文に即した語句の意味を正確に読む力が落ち込んでいるので、語句の意味を調べたり、宮沢賢治の独特の世界観や表現を読み取ることで、言語感覚を高めていきたい。

展開時にはポスター作りのための5つの項目について調べることで、登場人物とその心情、場面、あらすじ、好きな表現や描写、優れた叙述を読み取り、自分の考えがまとめられるようにしたい。

事前調査の結果（男子18名 女子18名 計36名 平成24年9月8日実施）

意 識 調 査		達 成 度 調 査	
		練 習 問 題	正答率
1	宮沢賢治を知っていますか。 ・知っている 19名 ・聞いたことがある 15名 ・知らない 2名	1 場面の様子にあった表現をとらえる力。 ・「たちまち」の言葉の意味を選びなさい。 (H23県学診・問題⑭・県平均44%)	37% (昨年度 39%)
2	読んだり見たりしたことのある作品はありますか。(複数回答) ・雨ニモマケズ (26名) ・注文の多い料理店 (17名) ・銀河鉄道の夜 (16名) ・セロ弾きのゴーシュ (7名) ・風の又三郎 (5名) ・まやなし (1名) ・よだかの星 (1名)	2 指示する語句の内容を読み取る力。 ・□に入る言葉としてよいものを選びなさい。 (H23県学診・問題⑮・県平均65%) 3 叙述に即して人物の気持ちの変化を読み取る力。 ・様子がわかる一文を抜き出し、はじめの10字を書きなさい。 (H23県学診・問題⑯・県平均34%)	66% (昨年度 56%) 53% (昨年度 28%)

(3) 指導と評価の計画 (8 時間扱い)

次	時	主な学習内容	評価規準
1	1	・宮沢賢治の作品について知る。 ・ポスター作りの見通しをもつ。	・学習目標と計画を立て、意欲的に取り組もうとする。(関)
2	2	・本文を通読し、初発の感想を交流する。	・「注文の多い料理店」とはどんな料理店なのか感想を書き交流する。(読)
	3	・場面分けをし、好きな場面を紹介し合う。	・設定、展開、山場、結末の場面構成と現実、非現実、現実の構造を関連づけてとらえている。(読)
	④	・登場人物の人物像を読み取り、話し合う。	・登場人物の行動や会話から人物像をとらえている。(読)
	5	・おもしろい会話文や表現を見つけ、紹介し合う。	・おもしろい表現や優れた叙述を見つけている。(読)
	6	・あらすじをまとめ、おすすめメッセージを書く。	・読み取ったことや学習したことをもとに、自分の考えをまとめている。(読)
3	7	・宮沢賢治の作品を読み、ポスター	・宮沢賢治の作品を読み、ポスターを
	8	を作る。	作ることができる。(読)

(4) 本時の指導

○ 目 標

登場人物の人物像をとらえることができる。(読むこと)

○ 準備・資料

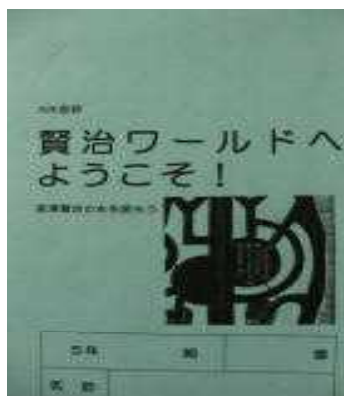
場面ごとの掛け図、学習計画表

(5) 展 開

◎ 個に対する指導の手立て

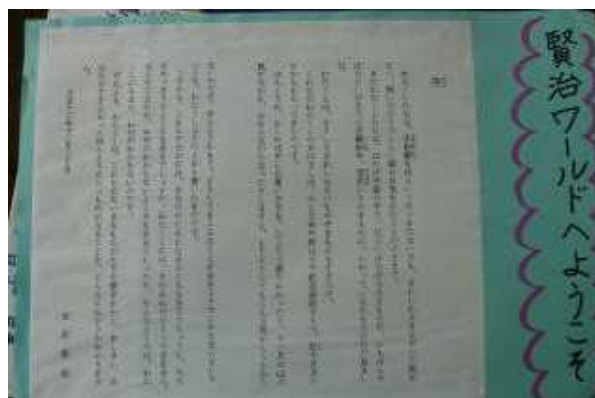
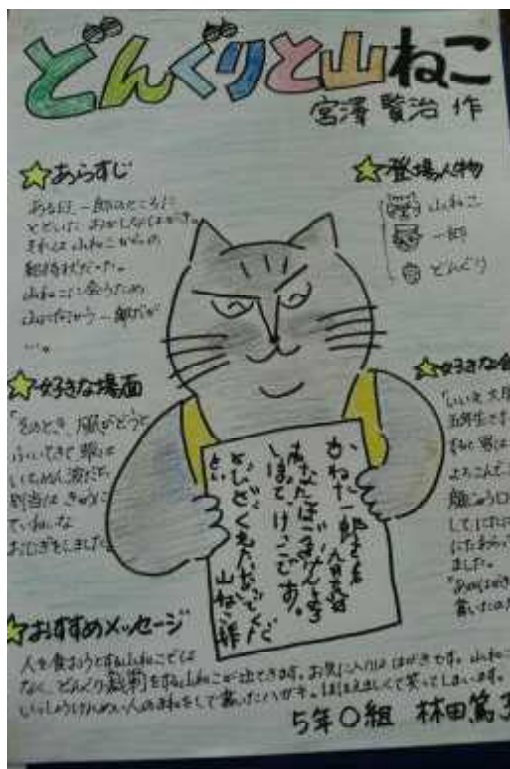
学習活動・内容	支援の手立てと評価
1 本時の学習課題を確認する。 登場人物の行動や様子, 会話を見つけ、人柄や性格を考えよう。	・本時の学習内容を全員が確認できるよう、学習課題はノートに書いて声に出して読ませたい。
2 登場人物の人物像や心情を読み取る。 (1) 「設定」の場面を読み、「二人のわかいしんし」の行動や様子、会話を確認し、まとめ方を確認する。 く 予想される児童の反応 ○様子や行動、会話 ・すっかりイギリスの兵隊の形をして ・ぴかぴかする鉄ぼうをかついで ・白くまのような犬を二匹連れて ・「二千四百円の損害だ」 ・「タンタターンと、やってみたい」 ・「ずいぶん痛快」 ○人柄や性格、感想 ・お金持ち ・自分勝手 ・残酷 ・遊びで狩りをしている	・「設定」の場面を一斉に読み取ることで、教科書の調べ方とノートのまとめ方を全員が理解し、自信を持って読み取りができるようにしたい。 ・「二人のわかいしんし」の身なりや持ち物、会話を手がかりにして、人物像を読み取るようアドバイスする。 ・場面ごとの心情が読み取れるよう、「設定」の場面の心情を話し合い、確認できるようにする。 ◎ノートの書き方がきちんと理解できなかったか机間指導を行い、できていない児童には助言をする。

(2) 「展開」「山場」「結末」の場面を読み、「二人のわかいしんし」の行動や様子、会話を見つけてサイドラインを引く。 (3) 人柄や性格、自分の感想を加えて、ノートにまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・「何か食べたくてたおれそう」 ・ひどく喜んで、大喜び ・「両方かねている」 ・かみをきちんとして、はき物のどろ ・鉄ぼうを外し、帯革を ・ぼうし、オーバーコート、くつを ・眼鏡、カフスボタン、金庫に入れる ・クリームをぬる ・こう水かける ・塩 ・がたがたふるえて泣く ・やっと安心しました ・顔だけは元のとおりになおりませんでした 3 ペアで考えをを交流する。 4 全体で「二人のわかいしんし」の人柄や性格について話し合う。 〈予想される児童の反応〉 ・食いしん坊 ・わがまま ・だまされやすい ・自分に都合のよいように受け取る ・えらいひとやお金に弱い 5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。 (1) 本時の学習の振り返りを書く。 (2) 次時の学習内容を確認する。	・会話文は括弧書きで見つけやすいので、全部に引くのではなく大切だと思うところだけ引き、行動や様子、会話のうち、行動と様子を中心にサイドラインを引くよう助言する。 ・人柄や性格についての考えがもてるよう、自力解決の時間を十分に確保する。 ◎サイドラインが引けない児童には、戸に書いてあったことばをヒントに、それを読んで何をしたのかを見つけるようアドバイスする。 ◎ノートにまとめられない児童には、戸の言葉に対し何をしたのかのヒントを板書する。 ◎早く終わった児童には、自学欄に心情の変化や感想を書くよう助言し、登場人物に対する自分の考えが深められるようにする。 【本時の評価規準】 登場人物の行動や様子、会話を見つけて、ノートにまとめている。(教科書にサイドラインを引いたか)(ノートに視写できているか。) ・机間指導で事前に児童の考えを確認しておき、話し合いが高まるようにする。 ・読み取ったことをもとに、人柄や正確について話し合い、人物像に迫りたい。 ・面白かった二人の会話を振り返り、次時の学習課題につなげたい。
--	---



	題 名	読んだよ マーク	備 考
1	雨ニモマケズ		
2	オツベルと象		
3	風の文三郎		
4	銀河鉄道の夜		
5	森の女王様		

読書カード「賢治ワールドへようこそ」



読書コーナーに 宮沢賢治の「序」を掲示。

- 左 導入時に 教師が提示したポスター。
あらすじ 登場人物 好きな場面
好きな会話文 おすすめメッセージ
を盛り込んだ。
下 児童作品



(6) 授業の実際

導入時に教師が作った「どんぐりと山ねこ」のポスターをモデルとして示した。

朝の読書の時間と休み時間との短い時間で子どもたちの前で作っていたので、簡単に作れるというイメージをもったようで、「先生。完成したんだね。」「私も作ってみたい。」と興味津々だった。また、導入時には、教師モデルのポスターを基に「登場人物」「あらすじ」「おすすめメッセージ」などの5つの項目を確認し、「注文の多い料理店」の学習計画を立てた。また、単元に入る前に準備していた宮沢賢治の読書コーナーの活用を充実させるために「賢治ワールドへようこそ」という読書カードを配付した。

教材文の「注文の多い料理店」を使った学習は5時間という予定だったので、早くポスター作りがしたい児童の意欲をそこなわないよう、計画通りに行った。登場人物や場面分けの学習には1時間の学習で十分だったが、山場の場面で心情を読み

取ったり、性格について話し合ったりする本時では時間が足りず、駆け足の授業になってしまった。語句の意味や言葉の使い方など指導したいことがたくさんあるのだが、重点を絞って学習活動を行わなければならないと感じた。

それでも、教材文「注文の多い料理店」で学んだことを生かして、児童は一人1冊、気に入った宮沢賢治の本を手にし、楽しく工夫しながらポスター作りを行っていた。

(7) 考察

語句の意味や表現技法、賢治独特の言い回しや南部弁など、この作品を通して、教師が児童に伝えたいこと気づいてほしいことはたくさんある。しかし、教師主導で一つの物語を掘り下げて詳しく学習しても、子どもたちはこんなに賢治作品をもっと読んでみたいと思うだろうか。一部の文学好き賢治好きの児童はよいだろうが、中には教科書教材でおなかいっぱいになってしまうような児童もいるだろう。児童にとっては、教材文を学ぶことより、教材文で学ぶことが大きな意味があるのだ。今回、教材学習を5時間という短い時間で行ったのだが、楽しそうにポスターを作っている児童を目のあたりにして、そう考えた。

ポスターが完成すると、それをもとに自然に交流が生まれ、さらに「賢治ワールド」を広げようとする子どもたちの姿がみられた。
並行読書と単元を貫く魅力ある言語活動として、どんな活動を行っていけばいいのか探って、さらに実践していきたいと考えた。

5 実践事例2

単元名 物語のおもしろさを『本の宝箱』に表して伝えよう（教材「海のいのち」）

(1) 単元を貫く言語活動とその特徴

①言語活動

- ・本の宝箱を作る。

②言語活動がもつ特徴

- ・本を読んで推薦の文章を書いたり、読み取ったことを工夫して表現したりすること。

③言語活動を通してつける力

- ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめる力。(読むこと エ)
- ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする力。(読むこと オ)

(2) 単元について

本単元では「物語のおもしろさを『本の宝箱』に表して伝えよう」を単元を貫く言語活動とした。これまで読んだ多くの物語の中から全校児童に紹介する1冊を選び、改めて読み直すとともに、「みんなの読書コーナー」を設置して、おすすめの1冊をお互いに読み合えるようにする。また、できあがった『本の宝箱』は、読書週間には学校図書館や図書コーナーに展示し、全校の読書活動も盛りあげたい。

事前調査の結果では、読書が好きな児童は多いものの、実際の読書活動には個人差がみられる。そこで、本単元では児童同士のおすすめの本を紹介し合うことで、読書の世界をさらに広げられるようにしたい。また、読書が好きではないとする児童にも魅力的な本との出会いになるようにしたい。達成度調査では、読み取りの問題が前回よりも正答率が高くなっている。さらに、読み取ったことや自分の考えを書く力を高めていければと考える。

導入時には、『本の宝箱』の例を教師が示すことで、学習への見通しが持てるようにする。『本の宝箱』には、宝箱の蓋と背表紙に「作品名」と「作者名」、「おもしろかった場面の絵」を書く。蓋を開けると、「あらすじ」、「おすすめメッセージ」、また「登

場人物」が飛び出す仕掛けなどを作っておく。単元の学習への意欲を高めるとともに学習のめあてを明確にしたい。

展開時には、登場人物とその心情、あらすじ、好きな表現や描写について調べ、自分の『本の宝箱』の表現に生かせるようにしたい。

事前調査の結果		(平成25年9月8日実施 対象人数35人)	
意識調査		達成度調査	
		練習問題	正答率
1 読書は好きですか。		1 人物の気持ちを叙述に即して正しく読み取る力	
・好き	23名	・「生きたい」気持ちを、かきたてるものを本文中から2つさがして書きなさい。	80 %
・どちらかといえば好き	8名	(H24年度 学力診断のためのテスト・問題⑪・県平均69 %)	(昨年度 65 %)
・どちらかといえば嫌い	2名		
・嫌い	2名		
2 一日あたりどれくらい読書をしますか。		2 場面や状況に関する叙述を正しく読み取る力	
・2時間以上	3名	・□に入る言葉としてよいものを選びなさい。	74 %
・1時間以上2時間未満	3名	(H24年度 学力診断のためのテスト・問題⑬・県平均65 %)	(昨年度 53 %)
・30分以上1時間未満	9名		
・10分以上30分未満	9名		
・10分未満	7名		
・全くしない	4名		

(3) 目標

- ①おもしろかった物語を読み返し、『本の宝箱』作りに意欲的に取り組もうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- ②登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
(読むこと エ)
- ③語感、言葉の使い方に対する感覚などについて興味をもつことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ))

(4) 単元の評価規準

- ①おもしろかった物語を読み返し、『本の宝箱』作りに意欲的に取り組もうとしている。
- ②登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、自分の考えを生かして『本の宝箱』にまとめている。
- ③語感、言葉の使い方に対する感覚などについて興味をもち、自分の表現に生かそうとしている。

(5) 指導計画(9時間扱い)

次	時	主な学習内容	評価規準
1	1	・『本の宝箱』作りの見通しをもつ。	・学習目標と計画を立て、意欲的に取り組もうとする。(関)
2	2	・主人公「太一」の人物像をとらえる。	・「太一」の人物像を読み取り、まとめている。(読)
	3	・「与吉じいさ」の人物像と太一との関係をとらえる。	・「与吉じいさ」の人物像と「太一」との関係を読み取り、まとめている。(読)
	④	・太一が「クエ」を殺さなかった理由を考える。	・「太一」の行動や心情の変化を叙述に即して読み取り、自分なりにまとめている。(読)
	本時	・あらすじを書く。	・作品のよさが伝わるよう工夫してあらすじを書いている。(読)
6	5	・「海のいのち」というテーマについて	・自分の考えをまとめ、おすすめメッセージを書いている。(読)
	6	の自分の考えを入れて、おすすめメッセージを書く。	
3	7 8	・『本の宝箱』を作る。	・『本の宝箱』で物語のおもしろさを紹介している。(読)
	9	・『本の宝箱』を紹介し合う。	

(6) 本時の指導

①目 標

「クエ」を殺さなかった「太一」の心情を想像して読むことができる。(読むこと)

②準備・資料

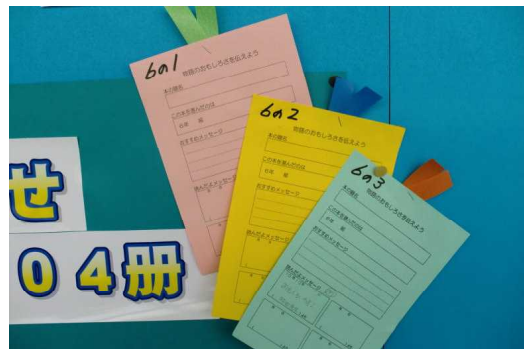
学習計画表

③展 開

◎ 個に対する指導の手立て

学 習 活 動 ・ 内 容	支援の手立てと評価
1 本時の学習課題を確認する。 「太一」が「クエ」を殺さなかったのはどんな気持ちだろう。	・学習計画表で前時までの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・登場人物として「太一」と「クエ」を確認し、その様子や行動、心情を意識して音読できるようにする。
2 「太一」が「クエ」と遭遇した場面を音読する。 P 13 L 2～P 14 L 14	
3 「クエ」の様子、「太一」の行動や心情を読み取る。 (1)「クエ」の様子を読み取る。 〈予想される児童の反応〉 ・海草のゆれる穴のおくに、青い宝石の目 ・ひとみは黒いしんじゅのよう ・刃物のような歯が並んだくちびるはふくらんでいて大きい ・えらを動かすたび、水が動く ・岩そのものが魚のよう ・百五十キロは優にこえているだろう ・動こうとはしない ・全く動こうとはしない	・児童の発表を板書してまとめ方の基本の形を示す。ノートには児童がそれぞれ工夫してまとめるようアドバイスする。 ・「クエ」の大きさと神秘的な様子について全体で確認できるようにする。 ◎早く終わった児童には、「クエ」の様子を絵で表現するよう声をかける。 ◎サイドラインが引けたか、ノートにまとめられたかについて机間指導を行い、助言をする。
(2)「太一」の行動や心情をノートにまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・興奮していながら、太一は冷静だった ・鼻づらに向かってもりをつき出す ・自分に殺されたがっているのだ ・とらなければ本当の一人前の漁師にはなれないと、泣きそうになりながら思う ・ふっとほほえみ～笑顔を作った ・「おとう、ここにおられたのですか～」 ・大魚はこの海のいのちだと思えた。	・「太一」の行動や心情を見つけ、サイドラインを引いてからノートにまとめるよう助言する。 ・自力解決の時間を十分に確保し、「太一」の心情をじっくり考え、想像できるようにしたい。 ◎サイドラインが引けたか、工夫してノートにまとめられたかについて机間指導を行い、助言をする。 (評)「太一」の行動や心情の変化を叙述に即して読み取り、自分なりにまとめることができたか。(教科書・ノート)
4 「太一」が「クエ」を殺さなかった理由を考え、話し合う。 〈予想される児童の反応〉 ・「クエ」は海のいのちだから殺してはいけないと思ったから。 ・「クエ」を父親のようなものだと思い、大切にしようと思ったから ・必要な分の魚だけをとりのが漁なので、自分の力	・机間指導で事前に児童の考えを確認し、多様な考えが発表できるようにする。 ・自然や大いなる海のいのちに対する畏敬の念について、それぞれが考えることができればよい。 ◎早く終わった児童には、自学欄に自分ならどうしたか、または感想を書くよう助言し、登場人物に対する自分の考えが深められるよう

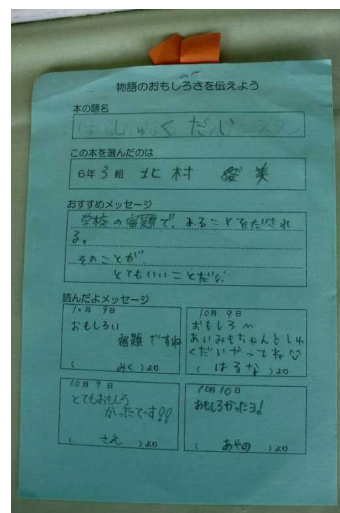
を試すために殺してはいけないから。 ・「瀬の主」はかけがえのない「海のいのち」だから。 5 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。 (1) 本時の学習の振り返りを書く。 (2) 次時の学習内容を確認する。	にする。 ・次時はあらすじを書くことを確認し、「山場」「結末」の部分の表現の仕方や読みたくなるような工夫を考えておくよう話し、見通しがもてるようにする。
---	---



読書コーナー 読書の秋とタイアップして



本には おすすめメッセージを書いた葉をはさむ。



教師が作った『本の宝箱』

宝箱の中身 (左)
背表紙 (右)





児童作品



(7) 授業の実際

立松和平の「海のいのち」は、いのちについて、人の生き方について深く考えるよい題材である。並行読書として「いのち」シリーズを始め、「いのち」や「人の生き方」をテーマにした本の並行読書をと考えていたのだが、「いのち」シリーズの蔵書が少ないこと、テーマがやや重く子どもたちの実態にそぐわないことから断念した。代わりに、6年間の読書の総まとめとして、これまでに読んだ物語の中で最もおもしろかった本を一人1冊選書し、それを読書コーナーに置き、並行読書を行うことにした。

選書した本には「おすすめメッセージ」を書いた葉をはさみ、読んだ児童は「ひとことメッセージ」を書き入れるようにした。児童は104人いるので、読書週間とタイアップして「めざせ104冊」というサブタイトルを入れた。

また、選書した本の『本の宝箱』を作ることを単元の言語活動とした。

導入時には、教師が選書した「チムとゆうかなな船長さん」と、1学期の既習内容の「バラの谷」との2冊の『本の宝箱』を示した。本の宝箱は、児童の目に触れないよう自宅で作ったのだが、大人が作っても楽しい作業であった。

児童とともに学習計画を立てた。5学年の「注文の多い料理店」同様、教材文の学習は5時間となった。本文の長さは「海のいのち」のほうが短く、5時間扱いでよかったと感じた。

本の宝箱作りでは、2時間の計画だったが、時間が足りず、実際には図工の時間も活用して4時間の扱いであった。

めざせ104冊では、葉の「読んだよメッセージ」のコメント数が多いものと少ないもののばらつきが見られたので、読書の時間にはできる限り教師も本を手にして、コメントを書き込んだ。

(8) 考察

自分が好きな本の紹介ということで、おすすめの1冊選びも意欲的に行っていた。『本の宝箱』作りは授業後も、テストが終わった少しの時間や雨天時の休み時間などにも楽しそうに行っていた。

学習計画を基に児童が司会をして、課題の確認をしたり、本時の学習をまとめたりする児童主体の課題解決型の授業を今後は行っていきたいと考える。

6 研究の結果

仮説(1) 読書活動と関連づけた単元を貫く言語活動を位置づけ、児童主体で学習計画を立てることで、児童は主体的かつ意欲的に学習活動に取り組むであろう。

導入時に教師が「ポスター」や『本の宝箱』を示すことで、単元の学習のゴールが明確になった。また、それに向けていつどんな学習をするのかという学習計画を児童とともに立てることにより、学習への意欲や主体的な取り組みへの意識が高まった。また、学習の見通しも明確になった。

また、「ポスター」や『本の宝箱』を作るといった言語活動は児童にとって、たいへん魅力的で楽しく学習に取り組めるものであった。

仮説(2) 読書活動を充実させるために、読書コーナーや読書カードを活用すれば、児童の読書活動がさらに充実するであろう。

5学年の読書コーナーでは「動物の体と環境」の学習時には動物と体、環境、生態の関する本を、「注文の多い料理店」の学習では宮沢賢治の本を設置した。それぞれリーフレットやポスター作りに生かすため、児童はよく読んでいた。単元を貫く言語活動とそれに向けての並行読書で、児童は新しいジャンルの本をすすんで読むことができた。また、「森林のおくりもの」では森や木に関する本を、「大造じいさんとガン」では動物と人との関わりに関する物語を、手塚治虫の学習では伝記と手塚治虫の作品を、公立図書館と学校司書の協力を得て学年の読書コーナーに設置した。総合的な学習の時間の環境に関する図書コーナーと合わせて、年に6回学年の読書コーナーを設置した。

本年度は「イースター島にはなぜ森林がないのか」の学習時に世界の七不思議や古代の遺跡に関する本を、夏休み前は「本は友達」の図書をそれぞれ読書コーナーとして設置した。また、「未来に生かす自然のエネルギー」では、エネルギー関連の本を、「ヒロシマのうた」では戦争文学を設置した。学級の50冊達成率は12月末で85.7%である。

7 今後の課題

読書コーナーを設置し、単元を貫く言語活動を位置づけた単元計画を作成したことで、授業改善・指導の向上につながった。また、児童にとっても何のためにこの学習をするのかが明確になり、教師主導の授業から、児童の課題解決型の学習への転換となった。

どの単元にどんな言語活動を位置づけていくかは、単元ごとの指導の重点事項を確認し、年間を見通してバランスよく指導および評価できるようにしなければならない。本校では昨年度の夏休みに単元別評価重点事項一覧(マトリックス)を作成しているので、年間指導計画とともに、手を加え、改善しながら授業のねらいの重点化に活用していきたい。

また、今後の課題として取り組んでいきたいのは、学力向上だ。そのためには、児童主体の課題解決型の授業を取り入れていくことと、学習の振り返りの時間を大切にし、児童の思考力を高めていけるようにしたいと考えている。

児童の学力がさらに向上するよう今後も実践を重ねたい。